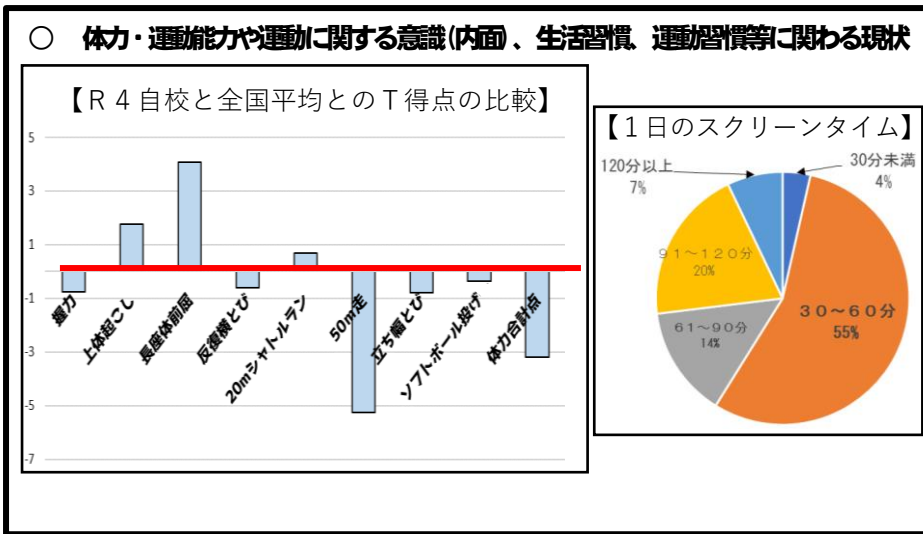


釧路町立富原小学校

- ・ 体力向上プラン
- ・ 実践概要

令和5年度 釧路町立富原小学校 体力向上プラン

1 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる現状



2 自校の児童生徒の体力・運動能力等の現状から分析した課題

- **体力・運動能力等に関わる課題**
- ・50m走において全国平均を大きく下回っている。
 - ・運動能力や運動経験の差が大きい。
- **生活習慣、運動習慣に関わる課題**
- ・学年が上がるにつれ、スクリーンタイムが長くなっている。

3 自校の児童生徒の体力・運動能力等に係る目標

- **体力・運動能力等に関わる目標**
- ・体育の授業における、主運動につながる準備運動に、走り方につながる多様な動きを取り入れ、走力の向上を図る。
- **生活習慣、運動習慣に関わる目標**
- ・家庭と連携し、メディアの適切な活用を図る。
 - ・「ちょっとやってみようかな」という意欲を喚起する運動環境を整備し、日常的に運動に親しむ子どもを育成する。

4 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる目標達成状況

○ **体力・運動能力等に関わる目標の達成状況に対する評価指標**

【評価方法】

- ・体力テスト全種目の実施及び課題のある種目の再実施
- ・5月、10月、2月に30m走の記録を測定

【成果指標】

- ・30m走の記録を5月の平均値から0.2秒以上向上させる。

【評価結果】

- ・**中間評価(10月)**
第2、4学年においては目標を達成したが、第3、5、6学年においては未達成
- ・**最終評価(2月)**
第2、4、5、6学年においては目標を達成し、第1学年も10月より記録を縮めた。
第3学年においては未達成

○ **生活習慣、運動習慣に関わる目標の達成状況に対する評価指標**

【評価方法】

- ・体育アンケートによる運動、体育の意識調査(10月、2月)
- ・全校メディアコントロールアンケートによるスクリーンタイムの調査(2月実施)

【成果指標】

- ・運動や体育が「楽しい」「やや楽しい」と回答する児童の割合90%以上
- ・スクリーンタイムが2時間以上と回答する児童の割合-5%

【評価結果】

- ・**中間評価(10月)**
体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」と回答する児童の割合90%以上を達成
- ・**最終評価(2月)**
体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」と回答する児童の割合90%以上を達成
スクリーンタイムが1日2時間以上と回答する児童の割合が-9.1%となり、目標を達成

5 自校の児童生徒の体力・運動能力等に応じた具体的な取組【1校1実践】

- 1 **運動への気付きを促す「オリンピック月間」の実施**
- ・運動への興味を高め、多様な運動を体験し、挑戦する楽しさを実感できるよう、校内にオリンピックに関わるクイズや体験コーナーを定期的に設置する。
- 2 **富原小中「歩こうウィーク」の実施**
- ・小・中連携して、徒歩での登下校を呼びかけ、徒歩通学をしたらシールを貼り、全校でのシールの数を掲示し、取組を可視化することにより、運動意欲を喚起する。
- 3 **「歩校チェックポイント」を基に、日常の運動を実感する。**
- ・広い校舎を活用し、校舎1周635mのウォークラリーを実施。1周回ごとに「歩きました証明書」を授与することにより、自己の取組を実感し、運動への意識付けにつなげる。
- 4 **自校の運動課題に応じた多様な運動の工夫**
- ・体育授業の導入において、「その場ダッシュ(ランニングステップ)」及び「もも上げ」を全学年で実施することにより、走力の向上を図る。
- 【取組指標】
- 1 8月、10月、1月に掲示する。
 - 2 月1回、1週間実施していく。
 - 3 8月から月1回、1週間実施する。
 - 4 全校で実施し、取組を全教員で共有する。

6 次年度に向けた具体的な取組の改善・充実

- ・運動等が好きな児童の育成を目指し、児童が運動の特性や魅力に応じて楽しさや喜びを味わうことができる「指導と評価の計画」の充実
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析結果を踏まえ、児童が自己の課題に応じて主体的に運動に取り組んだり、友達と関わりながら課題を解決したりする授業の充実
- ・児童が運動に親しむことができる環境づくりを一層推進するために、体力向上に係る検証改善サイクルの質的向上を図る

目指す子どもの姿

- ・運動の楽しさや喜びに触れ、日常生活に運動を取り入れていく子ども
- ・自己の運動の行い方などについて考え、積極的に他者に伝える子ども

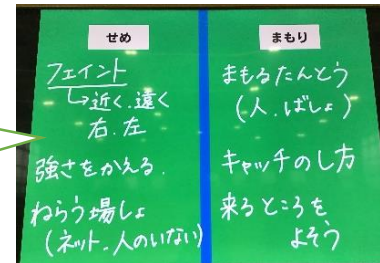
全ての児童生徒が楽しく、意欲的に取り組むことができる授業づくり

体育専科教員等の視点による授業づくりのポイント

内容のまとまりを見通した授業実践のポイント

- ・「やってみたい!」「できそう!」という挑戦する意欲を醸成する場の設定
- ・単元における学習内容のつながりを明確にし、子どもが思考を働かせる単元構成
- ・「協働的な学び」を促すICT機器の活用

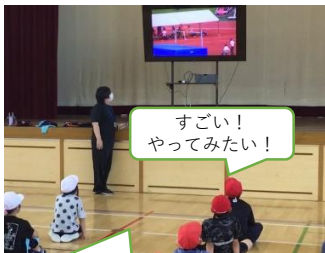
単元における子どもの気付きや振り返り、動きのポイントを蓄積し、学習内容のつながりを可視化



グループの動きを録画し、その場で確認して考えを伝え合うことで、課題を効果的に解決

【子どもの考えの蓄積を学習課題の設定に生かす】 【録画機能等を活用した協働的な学びの様子】

単元の「導入」場面における指導の手立て



第4学年高跳び導入

楽しかったポイント😊

- ・得点できると楽しい
- ・ボールがつながると楽しい
- ・声をかけ合うのが楽しい

難しかったポイント😓

- ・サーブ
- ・パス
- ・動き
- ・得点を決めること

第6学年バレー 子どもから学がった楽しさ、難しさ

【動画視聴の様子】 【次時の学習課題につなげる振り返り】

- ・単元における学習の見通しをもたせ、運動意欲を高める動画視聴
- ・運動の楽しさや難しさを振り返り、次時以降の学習課題につなげる工夫

「知識及び技能」の習得の場面における指導の手立て



【「台上前転」における多様な練習の場】

- ・個の課題やつまずきに応じた場の設定

「知識及び技能」の活用場面における指導の手立て



マット運動の動きのポイントと、自分の試技とを見比べて、互いの課題を伝え合う場



バレーボールにおいて、チームの動きやポジションを動画で確認し、作戦会議を行う場

【ICT機器を活用した話し合いの様子】

- ・動きのポイントについて、確認したり考えを伝え合ったりする場面におけるICT機器の活用
- ・運動課題の効果的な解決に向け、子どもが相互に協力する場面を意図的・計画的に設定



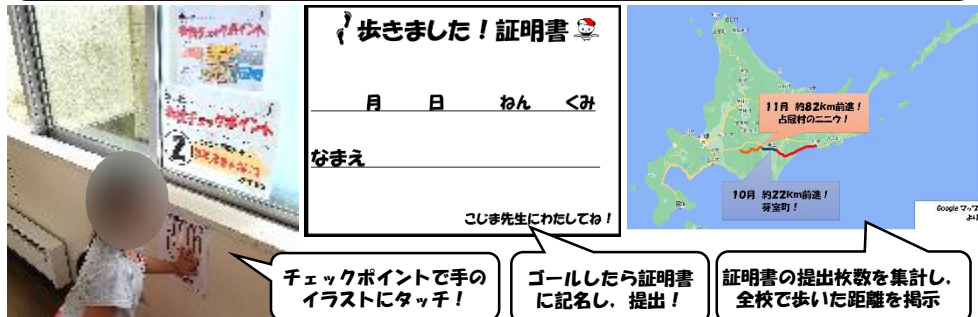
体力向上に向けた授業以外の組織的な取組



体育専科教員等の視点による授業以外の取組のポイント

運動の日常化を図る

歩校（あるこう）チェックポイント



歩きました！証明書

月 日 ねん ぐみ

なまえ

こじま先生にわたしてね！

11月 約82km前進！占段村の二二ヶ！

10月 約22km前進！有楽町！

チェックポイントで手のイラストにタッチ！

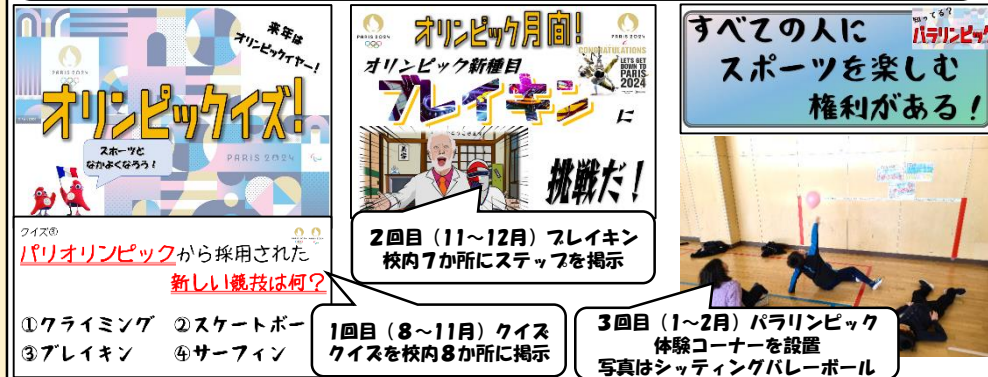
ゴールしたら証明書に記名し、提出！

証明書の提出枚数を集計し、全校で歩いた距離を掲示

- ・校舎内に計12箇所の「歩校（あるこう）チェックポイント」を設け、全て回ると全長635mを歩くことができる広い校舎を生かしたコースを設置
- ・コースを1周回ると「歩きました証明書」を教師へ提出し、10枚たまると表彰状を授与
- ・全校で歩いた距離の合計を掲示し、運動意欲を喚起

運動に興味をもつ

オリンピック月間



オリンピック月間！

オリンピック新種目

パリオリンピック

すべての人にスポーツを楽しむ権利がある！

2回目（11～12月）フレイキン 校内7か所にステッブを掲示

1回目（8～11月）クイズ クイズを校内8か所に掲示

3回目（1～2月）パラリンピック 体験コーナーを設置 写真はシャッキングバレーボール

①クライミング ②スケートボード ③フレイキン ④サーフィン

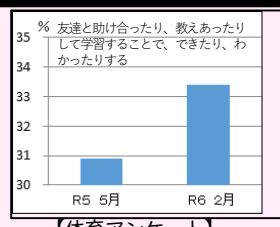
- ・運動への興味を高め、多様な運動を体験する中で、挑戦する楽しさを実感できるように、校内にオリンピックに関わるクイズや体験コーナーを定期的に設置

これまでの授業改善及び組織的な取組の成果

体力向上に向けた今後の具体的な取組

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
5月	未実施	6.9秒	6.1秒	6.5秒	6.3秒	6秒
10月	7.2秒	6.6秒	6.2秒	6.1秒	6.2秒	6秒
2月	7.1秒	6.5秒	6.2秒	6.2秒	6.0秒	5.6秒
5月からの伸び	-0.1秒	-0.4秒	+0.1秒	-0.3秒	-0.3秒	-0.4秒

【30m走の記録】



※「いつもある」と回答した割合

- ・体育授業の導入において、「その場ダッシュ（ランニングステップ）」及び「もも上げ」を全学年で実施したり、定期的に短距離ダッシュに挑戦したりする場を設けるなど、挑戦する意欲を醸成する場を設定したことから、5つの学年において、30m走の記録が向上した。
- ・単元構造図を作成し、子どもが協働的な学びを通して思考する場面を意図的に設定したことから、体育アンケートにおいて「友達と助け合ったり、教えあったりして学習することで、できたりわかったりする」と回答した児童の割合が増加した。

- ・運動等が好きな児童の育成を目指し、児童が運動の特性や魅力に応じて楽しさや喜びを味わうことができる「指導と評価の計画」の充実
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析結果を踏まえ、児童が自己の課題に応じて主体的に運動に取り組んだり、友達と関わったりしながら課題を解決する授業の充実
- ・児童が運動に親しむことができる環境づくりを一層推進するために、体力向上に係る検証改善サイクルの質的向上を図る